



# 保育關係文献解説(三)

愛育研究所員 竹田俊雄

## 八 お話と劇

飛田多喜雄

「幼児の言語教育」(保育叢書二二)

昭和二十二年 B6一六六頁

巖松堂 一一〇圓

保育におけるお話というものは、童話を話してきかせることだけではない。人の話をよくきく態度をつくるとともに、よく話すように導くことが目標である。この書は成蹊學園教育論である著者が、乳幼児から就學前後までのこどもの言語生活を考察して、幼児の言語教育はどのように行われなければならないかを述べたものであつて、まず幼児の言葉というものはどのような特質をもっているかを明らかにし、次に言語の發達を乳兒期・幼兒前期・幼兒後期の三段階にわたつて説き、言語教育の問題の章に入つては、話し言葉の正しさ、美しさ、豊かさを取り上げ、さらに家庭における言葉の躰け方

幼稚園、保育所の言語教育を具體的に扱つてゐる。たとへば基本的な口習いとして朝の幼稚園の生活の場面などが擧げられてゐる。教養向。

上澤謙二

「幼児の談話教育」(保育叢書三三)

昭和二十四年 B6二八一頁

巖松堂 二〇〇圓

これは話すことがすぎな幼児を、どうして話させるように導くか、童話家であり、園長である著者が多年の経験をまとめたものであつて、全篇十一章から成つてゐる。いかに話をうかと苦心する先生は多いが、いかに話させようかと苦心する先生は少い。最大の教育である言葉の教育を最上の時期に行つて最良の状態を得られるようにせよ。話させるまでにどんな段階があるか。相互的會話、集團的話し合い、個人的發表等のいろいろの方法。話させる場の構造はどうするがよいか。話のきらいな子をすきにする導き方。問答の活かし方や

話させる補助方法。最後に保育者としての態度。これらのことがきわめて具體的に、懇切に述べられていて、幼児の言語の導き方の話す面について大いに参考となる。 教養向。

上 澤 謙 二

「幼児のお話教育」(保育叢書一六)

巖 松 堂

昭和二十三年 B 6 一六二頁

一一〇圓

前の書と同じ著者が幼児にきかせる話について研究したもので、幼児ばなしは赤ちやんばなしとどのように區別されるか、お話は何のためにされ、どのようなはたらきをもつか、家庭ばなしにおいて母親はどのような位置にあるか、幼稚園ばなしは家庭ばなしや會場ばなしとどのように違うか。幼稚園ばなしはどのような性格をもつて、観察ばなし、動作ばなし等々その種類によつてどのように取扱つたらよいか、幼稚園ばなしの話し方はどのように進めて行くべきか、幼稚園ばなしは性格教育の意味をもつて、どのような氣質の子どもにはどのようなお話を與えたらよいか、などということが豊かな實例をもつて示されている。子どもにお話をきかせる保育者にとつて好個の教養向圖書である。

内 山 憲 尙

「幼稚園 お話と人形芝居」

フレイベル館

昭和二十四年 A 5 一九八頁

二〇〇圓

お話と人形芝居についての教科書風の概説書。最初のお話の意義と範圍の章において一應一般的な問題に觸れているが

大體は幼児童話についての記述であつて、その教育的な價值組立と與え方、言葉、音聲、ゼスチャー等の技巧が述べられていて、應用として繪話、立體的童話、さらに人形劇、影繪紙芝居にわたつてゐる。最後にお話の配當、保育案、童話資料が掲げられ、附録として指使用人形芝居脚本三篇が加えてある。

奈良島知堂

「子供へのお話の仕方」

小峰書店

昭和二十三年 B 6 一九四頁

七五圓

副題にあるように、先生と父母のために、子どもえのお話の仕方を平易に述べたもの。子どもとお話の重要性、お話とはどんなものか、子どもの心の發達との關係、お話のもつべき要件、お話の仕方、創作する場合の注意等をかかけ、九篇から成る例話集を添えている。一般向。

日本幼稚園協會編

「幼稚園お話集」(全三冊)

フレイベル館

上篇 昭和二十二年 B 6 二〇六頁

四五圓

中篇 昭和二十二年 B 6 一七九頁

四五圓

下篇 昭和二十三年 B 6 一九〇頁

四五圓

保育者が幼児にきかせるお話の資料として、日本幼稚園協會が編纂したものである。ここに採用されてゐるお話は、その出典から見れば古今東西にわたり、總計一二四篇(上篇四八、中篇四〇、下篇三六)外に上篇の巻頭に吟誦用のうた六篇が掲げられている。その多種多様な話の排列に系統分類は

見られないが、保育者が適宜に選んで話せば、いずれも大い  
にこどもを喜ばすことができよう。幼児向話材集。

與田準一・波多野勤子編

「幼児に聞かせるたのしい話」(婦人新書3) 中央公論社

昭和二十四年 B6二二七頁

一五〇圓

未明・讓治・廣介のような大家や、多くの新人たちの作品  
の中から、與田・波多野兩氏が幼児に話して喜んだもの六十  
六篇を集めた童話集。中には兒童心理學者の作も加えられて  
いる。春夏秋冬の四部に分けられ、比較的短い話が多く、新  
しい時代のこどもに適しい内容をもっている。巻末には波多  
野完治氏の「お話のきかせかたとこの本のつかいかた」とい  
う解説がそえてある。幼児向話材集。

民主保育連盟共編  
兒童文學者協會

「字供に讀ん  
て聞かせるお話の本(冬の巻)」

昭和二十四年ノート版三三五頁

二九〇圓

羽田書店

現代日本の童話作家や保育の現場に働く保母の作品、世界  
の昔話や童話の幼児向再話など、六十四篇を集めたもの「た  
のしい冬のお話」「うつくしい冬のお話」「寒さにまけず」  
「自然にしたしむ」「おはなし遊び」「世界のお話から」の  
六つに分けられ、幼児保育の實際との關連が考慮されてい  
る。聞かせるお話としてや、長いものが多く、その扱い方は  
巻末にくわしく解説されている。幼児向話材集。

なおこの書は全四冊で完成するもので「春の巻」も既に刊

行されている。

上澤 謙 二

「新幼児ばなし三百六十五日」

恒星社厚生閣

(1)一月二月の巻 昭和二十四年B6二五四頁 一五〇圓

(4)七月八月の巻 同右 B6二八一頁 二三〇圓

(6)十一月十二月の巻 同右 B6二八九頁 二三〇圓

これは一月一日から十二月三十一日まで、毎日一つずつお  
話が掲げてある。戦後の改訂版として既刊のものは上記の三  
冊のようで、全六冊で完成するものである。それぞれのお話  
のはじめには、そのお話の目的と取扱い方がくわしく説明  
されていて、再話も一々その典拠が明らかにされている。ここ  
に載せられたお話の中には、觀察の話もあれば、こつけない  
話もあるが、これらすべてを貫いているものは、お話によつ  
て幼児に健全な崇高な力強い性格の基礎も据えられれば、誤  
つた人生觀の胚種も播かれるという、著者の眞剣な態度であ  
る。

内山 憲 尙

「幼児と  
低學年の實演童話集」

昭和二十四年 B6二五一頁

一八〇圓

中央評論社

こどもにそのまま話してきかせるような形で二十篇の童話  
を集めたもの。一つ一つに話の要點、きき手の程度、所要時  
間、實演の注意が記されていて、本文の欄外にその時々々の語調  
や身振りの頭註が加えられているのがこの書の特徴である。

## 幼児向話材集。

(幼児向話材集としては、これらの外に各種の單行の童話集があるが、ここには割愛する)

松葉重庸

「幼児の紙芝居と人形芝居」(保育叢書一七)巖松堂

昭和二十四年 B6二二三頁

一七〇圓

この書はまず保育における紙芝居の位置を説き、紙芝居の歴史に簡単に觸れて、保育者が自ら紙芝居を製作するにはどのようにすればよいかを教え、さらにその實演のやり方を示している。人形芝居についても、その種類を擧げるとともに指つかい人形芝居を保育者が行うには、どのような筋道を辿ればよいか、脚本、人形の製作、演技、演出についてくわしく指導している。そして附録として人形芝居脚本三篇が添えてある。保育者として紙芝居や人形芝居を扱うに参考とすべき教養向き書である。著者は移動人形劇場主宰。

松葉重庸

「幼児の人形芝居脚本集」(保育叢書二二)巖松堂

昭和二十四年 B6二四二頁

一八〇圓

これは幼児のための指つかい人形芝居の脚本一七篇を集録したもので、舞臺を特に要しないもの、土臺だけの簡單な舞臺でできるもの、背景の幕を用いるもの、舞臺枠のある舞臺を要するものに分けて、それぞれ脚本を掲げ、演出し方を示している。脚本には「うさぎのダンス」のような單純なものから「ピノチオ」のような複雑なものまでが擧げられてい

る。そして巻末にこれらの脚本で用いる人形の作り方や必要な樂譜が添えてある。幼児向人形芝居のよい資料である。

東京都保育會文化部編

「劇あそび脚本(改訂増補)」

フレイベル館

昭和二十四年(昭和二十五年訂)B6一六三頁 一五〇圓

これは東京都公立幼稚園で幼児が實際に演じた劇遊びの脚本を集めたもので、「ピーター兔」以下二十二の脚本が載っている。それぞれの幼稚園で原作のものもあれば、脚色したものもあるが、保育の立場から理論的に、また實際的に検討されたものである。幼稚園や保育所で劇遊びを行う場合よい資料となるであろう。

## 九 音楽とりズム

酒田富治

「幼児の音楽教育」(保育叢書二五)

昭和二十三年 B6一七〇頁

巖松堂

この書は、幼児と音楽・幼児の教育と音楽・幼児と音楽教育・聴かせる音楽・歌わせる歌曲の五章から成つてい、幼児の生活や教育に音楽がどのような關連をもつてゐるかを、兩者の特性から明らかにしようとし、幼児の音楽教育というものがどんな在り方でなければならぬかを強調し、音楽教育の聽かせる面と歌わせる面とについて具體的に述べている。著者は尾山臺小學校勤務。教養向。

東京都保育研究會音樂部會編

「子供たちの楽しい歌」(全四冊)

白眉社

春の巻 昭和二十三年 B5二七頁

五〇圓

夏の巻 同 B5二五頁

五〇圓

秋の巻 同 B5二七頁

五〇圓

冬の巻 同 B5二五頁

五〇圓

幼児のための歌を、各巻一八曲ないし二〇曲ずつ、季節別に掲げたもの。春の巻は三月からはじまる。東京都公立保育園の人達が實際保育の場面で子ども達に最も喜ばれたものを集録しているので、各曲とも幼児に適しているといえよう。

幼児向歌曲集。

戸倉ハル、天野蝶、一宮道子

「うたとゆうぎ」

二葉書店

春の巻 昭和二十三年 B5二三頁

七〇圓

秋の巻 同 B5二三頁

六〇圓

こどものこよみ 昭和二十四年 B5二五頁 七〇圓

「春の巻」「秋の巻」は幼児のための歌を各巻一―曲ずつ載せ、歌曲とともに振付が示されている。「こどものこよみ」は幼稚園の年中行事を主にして、一二曲がその振付とともに掲げられている(内二曲は前二巻と重複)。いずれ幼児向の歌曲であるが、振付についてはリズム保育の立場からは論議があらう。幼児向歌曲ならびに振付集。

酒田富治編

「行進・リズム曲集」

白眉社

昭和二十四年 B5三一頁

八〇頁

比較的平易な行進曲八曲、駢尾曲三曲、スキップ三曲、ギヤロップ曲五曲を集録したもので、幼児のリズム保育に用いられるものもある。リズム曲集。

發行所 所在地

巖松堂 東京都千代田區神田神保町二ノ二

フレールベル館 同千代田區神田神保町二ノ四

小峰書店 同新宿區四谷舟町六ノ六

中央公論社 同千代田區丸ノ内二ノ二、丸ビル五九二

羽田書店 同千代田區神田駿河臺三ノ四

恒星社厚生閣 同中央區銀座西八ノ八

中央評論社 同港區芝浦二ノ一、三友社ビル

白眉社 同日黒區下目黒二ノ四六八

二葉書店 同北區稻付町二ノ二一八

☆

☆

☆